



Little Diamonds

YOUTH



レッズユースにとって2年ぶりの高円宮杯がスタートした

初戦は追いついてドロー 高円宮杯第18回全日本ユース選手権、 一次ラウンド始まる

高円宮杯第18回全日本ユースサッカー選手権(U-18)が9月9日(日)から始まった。浦和レッズユースはBグループ1次ラウンドの第1戦で静岡学園高校と対戦。先制されたが追いつき、引き分けでのスタートとなった。レッズユースはこの後、青森山田高校、星稜高校と対戦する。1次ラウンドを終えてグループ上位2チームと、3位チームのうち6グループ中上位4位までが決勝トーナメントに進む。

互いに持ち味発揮する好試合 原口が同点弾 ~ 静岡学園高戦

前半、中盤での激しい攻防から18分に鈴木秀史がエリア内でパスを受け決定機を作るが、静学DFに阻まれシュートならず。21分には山田直輝が中央のスペースへ走り込んでシュートを放つが決まらなかった。

後半13分、静学に先制を許す。カウンター気味に左サイ

ドをドリブルで突破され、ミドルレンジから打たれたシュートが、GK柴田大地が懸命に伸ばす手をそれ、ポストに当たってマウス内に入った。しかしその5分後、エリア前で山田、鈴木とつなぎ、途中出場の原口元気へ。得意の左から持ち込んだ原口はDFをかわして、落ちていてゴール左へと蹴り込んだ。

その後は、互いにゴール前まで攻め込みチャンスを作るが、両者とも高い集中力と粘り強い守りで決勝点を許さずドローとなった。両チームの持ち味がぶつかり合う好ゲームだった。

レッズユーススケジュール

9月15日(土) vs 青森山田高 (11:00・埼玉第2G)

9月17日(祝) vs 星稜高 (13:20・埼玉第2G)

1回戦 = 9月22日(土)
準々決勝 = 9月24日(祝)
準決勝 = 10月6日(土)
決勝 = 10月8日(祝)
*決勝は埼玉スタジアム

全日本ユース選手権(U-18) 1次ラウンドBグループ第1戦	
2007.9.9(日)駒場スタジアム	
レッズユース	1 前0 後1 VS 前0 後1 1 静岡学園高
GK	柴田大地
DF	池田涼司 山地 翔 濱田水輝 永田拓也
MF	矢部雅明 山田直輝 鈴木秀史(田仲智紀) 高橋峻希
FW	宮川貴司(原口元気) 林 容平(岸 幸太郎)
得点者	原口(63分)
	* 45分ハーフ

最後まで戦う姿勢出せた 堀 孝史 監督

全国大会に出ているチームはどれも強いので、難しい試合でした。結果に満足している訳ではありませんが、先制されて追いついたという意味においては、まずまずかなと思います。うちのベースである、最後まで戦う姿勢を出せたという意味では良かったです。

失点に関しては、取られるときというのはこういうものだといつも言っていますし、選手たちもわかっていると思います。この失点についてどう言うのではなく、トレーニングの中で修正していくことだと思います。同じやられ方をしないということで、春にプリンスリーグで高校と対戦したときは、うちに合わせて戦ってくるチームが多かったですけど、静学は自分たちの特長を出してきたし、こちらも出させて、得点は少なかったけど面白いゲームになったと思います。



後半18分、原口が同点ゴールを決める(99/静岡学園高戦)

後半22分、田仲がゴールを決める(826/山形ユース戦)

Jユースサハラカップは白星スタート

8月26日(日) 埼玉スタジアム第3グラウンドにモンテディオ山形ユースを迎え、Jユースサハラカップ2007第15回Jリーグユース選手権の初戦を行った。

立ち上がりから主導権を握るもののゴールを割れない時間が長かったが前半ロスタイム、CKのこぼれ球を濱田水輝が拾い、ドリブルで抜け出して先制点を決めた。後半は、4分に田仲智紀のパスから岸幸太郎が追加点、22分には矢部雅明のスルーパスに走り込んだ田仲が3点目。さらに27分、林容平が倒されて得たPKを田仲が決め4-0と大きくリードした。ロスタイムにパスを回されて1点を失ったが、ほぼ完勝のJユース初戦だった。

レッズユースは予選リーググループDに入り、山形のほか、F東京、川崎、新潟のユースチームとホーム&アウェイで全8試合を戦う。11月までかけてリーグ戦を行い、上位2チームが決勝トーナメントに進む。



Jユースサハラカップ グループD第1戦	
2007.8.26(日)埼玉スタ第3グラウンド	
レッズユース	4 前1 後3 VS 前0 後1 1 山形ユース
GK	柴田大地
DF	池田涼司 山地 翔 濱田水輝 永田拓也
MF	高垣大樹(岸 幸太郎) 田仲智紀(鈴木秀史) 石沢哲也(矢部雅明)
FW	原口元気(武富尚紀) 阪野豊史(菅井順平) 林 容平
得点者	濱田(44分)、岸(49分)、 田仲(67分)、田仲(72分)
	* 45分ハーフ

レッズユーススケジュール

9月29日(土) 浦和 vs F東京(10:45・埼玉第3G)
10月21日(日) 川崎 vs 浦和(14:00・しんよこフットボールパーク)
10月28日(日) 新潟 vs 浦和(13:00・東北電力サブG)
11月4日(日) 浦和 vs 新潟(12:00・レッズランド)
11月11日(日) F東京 vs 浦和(13:00・東京ガス深川G)
*山形 vs 浦和、浦和 vs 川崎の日程は現在調整中。

1回戦 = 12月2日(日)
2回戦 = 12月8日(土) 9日(日)
準々決勝 = 12月16日(日)
準決勝 = 12月22日(土)
決勝 = 12月24日(祝)・長居スタジアム

世界の壁に挑んだ レッズユース

8/11
~
8/14

スペイン遠征



観客も少なくない中で
国際試合を体験した

レッズユースは8月11日から14日にかけて、スペインで行われたビジャレアル国際トーナメントに出場した。欧州を中心に選りすぐりの強豪クラブユース8チームが集結して行われるこの大会に、レッズはアジア地域から初めて参加。「世界の壁」に挑んだ。

現地レポート 塩谷剛史(フリーライター)

地元と対戦は「完全アウェイ」 ~ ビジャレアル戦

大会初日、レッズは開幕戦でホーム、ビジャレアルと激突した。スタンドには、地元のユースチームをサポートする老若男女が続々と詰めかけ、場内はあっという間にアウェイの空気ができあがった。その空気を断ち切るかのように、レッズは前半から試合の主導権を握る。前半13分には右CKに丸山和男がヘッドで合わせ決定的な場面を迎えるが、シュートはGKの正面をつき得点できない。両チーム無得点で迎えた後半8分、レッズはパスミスを含めてビジャレアルのカウンターを浴び失点。リードを許す。後半12分、レッズは林容平が田仲智紀とのワンツーでDFラインの裏へ抜け出すと、相手DFのタックルを受けペナルティエリア付近で倒される。一瞬PKかと思われたものの、主審の判定はエリアの外。この反則で相手DFは一発退場となったが、同時にレッズはこの試合最大の得点機を逃してしまう。その後、レッズは内容で圧倒しながらも、引いた相手を崩せず痛い敗戦を喫した。



林がペナルティエリア前でバックチャージを受ける(8.11/ビジャレアル戦)

世界基準のプレッシャーを体験 ~ レアルマドリッド戦

第2戦はなんと、夜の11時にキックオフされた。対戦相手はレアルマドリッド。聞けば、今回のメンバーの多くは既に代理人契約を済ませたリーガ予備軍なのだという。試合は前半からレアルが強烈なプレッシングと正確なボールコントロールで支配する。レッズが得意とする細かいパス交換や選手同士の運動性は奪われ、前線へボールの供給もままならない。それでも15分過ぎからは徐々に落ち着きを取り戻し、なんとか無失点で前半を折り返す。しかし、後半立ち上がり2分に、セットプレーから失点。前日に続きリードを許し苦しい展開となる。反撃したいレッズは後半6分、左からのCKに林が頭で合わせ同点ゴール。先制点で余裕の生まれ始めたレアルに強烈な一撃を見舞い、試合を振り出しへと戻す。レアルは後半15分に3選手を同時に替え、一気に勝負をかけてくる。後半20分、レッズはDFからポランチに入るパスを狙われボールを奪われると、レアルに2点目を献上。これが決勝点となりレッズは2連敗となった。シュート数が前半半わずか2本ずつ、計4本しかゴールを叩いた。林も「一度も前を向けなかった。こんなに何もできなかったことは今までにない」と振り返った。レッズの選手たちは、想像以上の、そして世界基準のプレッシャーを体験することとなった。

第2戦は最も「壁」を感じた試合だった(8.12/レアルマドリッド戦)



日本 英蘭レッズ対決に勝利 ~ リバプール戦

“レッズ”同士の対戦となったリバプール戦。両チームともに2連敗で迎えた予選最終戦は双方のプライドをかけた戦いとなった。前半は完全にレッズがペースを握る。この日先発で起用された原口、林、宮川の3トップが起点となり、チャンスを演出する。7分に宮川、9分には林がシュートを放つが、いずれも決定機を生かせない。後半は一転、リバプールのペース。8分にレッズはGKと一対一のピンチを迎えるが、GK柴田大地が素晴らしい反応を見せ、得点を許さない。終盤にリバプールのスタミナがガクッと落ちると、レッズは相手ゴール前に何度も迫るようになる。ようやく得点が生まれたのは後半27分。フリーで抜け出した武富尚紀のシュートはいったん相手GKに阻まれるが、そのこぼれ球を再び押し込みゴール。赤い誇りをかけた戦いは、日本のレッズに軍配が上がった。



後半27分、武富が決勝ゴールを挙げた(8.13/リバプール戦)

苦手のPK戦で5位を逃す ~ セルティック戦

大会最終日、予選を1勝2敗で終えたレッズは5位決定戦で、グラスゴー・セルティックと対戦した。先に流れをつかんだのはレッズ。前半8分、右サイドを突破した池田涼司のクロスを田仲智が左足でダイレクトシュート。このシュートは無情にもパーを超え、チャンスを生かせない。4試合で4足目の0-0で折り返した後半、今度はメンバーを大きく入れ替えたグラスゴー・セルティックが流れを引き寄せた。しかし、こちらも決め手を欠き、試合はPK戦へ。今季の公式戦でPK戦未勝利のレッズは2人目、3人目といずれも枠を外し、4-1で敗戦。8チーム中6位の成績で大会を終えた。



ヨーロッパの強豪相手に4試合を行った(8.14/セルティック戦)

ビジャレアル ユーストーナメント

< グループリーグ >

0 - 1 ビジャレアル

1 - 2 レアルマドリッド

得: 林 容平

1 - 0 リバプール

得: 武富尚紀

* 4チーム中3位で5位決定戦へ

< 5位決定戦 >

0 - 0 セルティック

(PK1 - 4)

* 8チームが2グループに分かれ、リーグ戦でグループ内の順位を決定。4日目に対戦し、最終的な順位が決定される。

* 試合は30分ハーフ。

厳しい試合から 何を感じるか

今回の遠征でレッズは「クラブユースがアウェイで世界と真剣勝負を戦う」という得がたい経験を果たした。レアル戦に敗れた後、堀監督は「選手たちはこんなプレッシャーを初めて感じたんじゃないかと思う。試合中に良い判断ができず、打開策も見つけれなかった。ただ、そこから選手が何を感じてくれるのか、それが彼らの今後に大きな影響を与えると思う」と語っている。選手一人ひとりがこの経験をどう受け止め、何を学び、どのようにプレーに反映させていくのか。「個」の力はピッチの外でも試されている。



レアルマドリッドに敗れ肩を落とすレッズユースイレブン。ここから何を学ぶかが最も大事なことで

サッカーも生活も、 実り多き体験ができた！

8/21

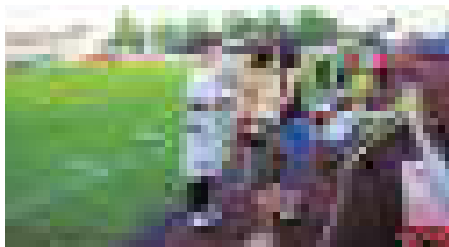
8/29

ドイツ遠征

8月21日から29日まで、ジュニアユースのU-14チーム19人がドイツ遠征を行った。バイエルン・ミュンヘンのクラブ施設でトレーニングを行い、昨年も参加した大会「Nissan Cup」に出場、準優勝した。サッカーで海外のチームと対戦する経験はもちろん、初体験の海外での生活は、選手たちにとって実り多き夏になったようだ。引率した淀川知治コーチに話を聞いた(写真は安齋健太郎アスレティック・トレーナー)

予選リーグ1位も決勝でPK負け ブンデスリーガ観戦でイメージ？

1日で5試合こなした訳ですが、大会のレギュレーションはどういうものですか。
淀川 5チームの総当たり戦をやって、1位と2位で決勝、3位と4位で3位決定戦を行いました。試合時間は14分ハーフです。ハーフタイムは水を飲むくらいで休憩時間はありません。試合と試合の間もほとんどインターバルなく始まりまして。天然芝でフルコート、11人制は変わりません。試合内容についてはどうだったですか。



淀川 初戦のハノーファーは、体の大きい選手ばかりでした。うまさはそれほどでもなかったですが、強さのあるチームでした。相手が高い位置を取ってきたので、うちはその裏をうまく突いて1点を取り、なんとかしのぎました。あまりこちらのことを知らなかったのでしょうか。

2試合目のシュツットガルトは去年も参加していて、2つの大会で2回対戦し、2回ともうちに勝てなかったんですね。監督も同じ人だったので、非常に気合いが入っていて、緊迫した試合でした。それで0-0です。

3試合目のカールスルーエと最後のフリードリッヒハーフェンには良いサッカーができて3-0と1-0で勝ちました。失点0というのは私も少し驚きました。

決勝でハノーファーと再戦。0-0でした。
淀川 相手は、かなりやり方を変えてきました。ほかの試合ではトップ下で出ている選手がセンターバックをやったり、攻撃もワントップ気味にして、自陣まで引いてしまうという。

その体格の相手に引かれるときついですね。
淀川 そこはまあ勉強しなければいけないところですね。ボールは持っていましたけど、密集した中での突破というのはできませんでした。相

手のカウンターにはきっちり対応できてこちらでも無失点。PK戦で負けたのは仕方ないですね。

昨年はこの大会で優勝したんですね。
淀川 ですから2回続けて日本のクラブにカップを持って行かれるのは嫌だったみたいで(笑)。シュツットガルトとハノーファーの最後の試合で、勝った方がうちと決勝であたるという展開になったんですが、向こうの監督が「これに勝ったら日本人とできるぞ」と。試合も壮絶でした。負けたシュツットガルトはかなり悔しがっていました。

この大会で刺激を受けたことはありますか。
淀川 この大会というより、前日にアリアンツアリーナに行ってバイエルン・ミュンヘンの試合を見たんです。

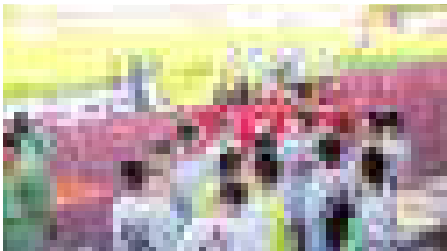
というハノーファーに3-0で勝ったブンデスリーガの試合ですか！

淀川 メーンスタンドの前から3列目くらいの真ん中の位置で、非常に見やすいんです。そこで向こうのプロ選手の強さなり寄せの速さなりをまざまざと見て、次の日の試合で実践してみたいようです。それで非常に良いイメージを持てたという気がします。

「はじめてのおつかい」ドイツ編 生活体験は海外遠征の大きな目的

大会は1日でしたが、遠征の中で文化に触れるなどして生活面での刺激を受ける目的もあったと聞きました。

淀川 まずは洗濯を自分たちでしなければいけません。ホテルには洗濯機がないですし、ランドリーサービスは朝8時に出て、夜8時までに戻ってくるというものなので、1日2回の練習に間に合いません。コインランドリーまでは車で5~6分かかると、子どもたちにはちょっと遠い。ということで、部屋の風呂などで手洗いでした。



毎日洗濯するのは初めての子が多かったですよね。

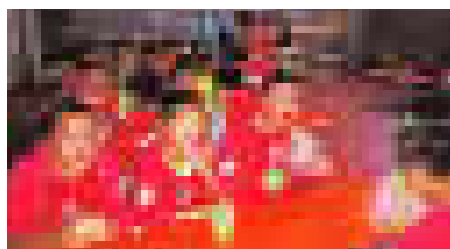
淀川 また、去年行ったときに、バイエルンの育成の人に「この若い年代を連れてきて、サッカーだけやって帰るのか。練習が多すぎる」と言われたんですね。そこで今回はちょっと考慮して、ある日の午前中の練習をなしにして、選手全員に買い物に行かせたんです。あらかじめ下調べをしておいて、こういう店でこういうものを買ってきてくれと。

「はじめてのおつかい」ですね。
淀川 そうです。懐中電灯だとか、足を冷やすバケツだとか、果物屋でリンゴを計り売りに買

ってくるのか、小さな文房具屋でノートを買うとか。1人だと少し危ないので、2人組にして、店の位置はだいたい教えて。

みんなできましたか。
淀川 買えない子もいましたし、違う店に行って違うものを買ってきた子もいました。でも自信を持って「買ってきました」という子もいたり。

それは日本では絶対できない体験ですね。
淀川 でも、その経験が利いたのか、最終日にバスでミュンヘンに観光に行ったんですが、10時から2時ごろまでの予定だったのが、選手たちが「4時間じゃ短い」と言うんです。それで夕食までに電車で帰ってくるならいいよ、ということになって、乗る駅と降りる駅、乗る電車の名前を紙に書いて渡しておきました。単独行動だけは禁止にして。結局、バスで帰ったのは2人だけ。あとは三々五々、電車でホテルまで帰ってきました。でも間違えて往復切符買った子もいましたけど(笑)。



食事はどうでしたか。
淀川 別室を用意してくれてしまって、ヨーロッパ人の中で食べる経験ができなかったのは少し残念でした。でもウェイターが皿を下げに来てくれたときに、最初はただ固まっていたのが、そのうち「ダンケシェン」とか「サンキュー」とか言えるようになった子もいました。

ドイツの食事は食べられましたか。
淀川 食事のときでないと、水以外あまり口にできないんですよ。コンビニがある訳でもないし、自販機もたいてい壊れているし(笑)。店まで買いに行く勇気はないし。だから、みんな三食しっかり食べましたよ。間食しないと本当によく食べますね。朝なんか食事時間の前に来て待ってたり。日本にいて飲み食いするものがないと、本当に空腹が空いて食べるということが少ないのかもしれないですね。とりあえず時間になって出されるから食べると。本気になって食事に向かっている感じが、それも貴重な経験ですね。

淀川 私自身、ドイツに暮らしていたことがあって、何かを買いに行くというのは、かなり勇気がいりました。でも買えたときには多少なりとも、外国にいるという実感が味わえるかなと思っていましたので、今回は最初から計画していました。電車までは難しいかなと思って考えていなかったんですが(笑)。食事もそうですが、もし今後海外に行くことになっても、あまり困ることのないように、サッカー以外のことも学んでほしいと思っていました。それが海外遠征の大きな意義だと思います。実り多き遠征だったようですね。

【大会成績】

Nissan Cup 2007

予選リーグ	1-0 ハノーファー 96 得：関口天翔
	0-0 VFBシュツットガルト
	3-0 カールスルーエ SC 得：片瀬吾、西山航平、矢島慎也
	1-0 VFBフリードリッヒハーフェン 得：鈴木悠太
決勝	0-0 ハノーファー 96 (PK3-5)

第31回日本クラブユース選手権(U-18) 準々決勝で広島ユースに敗退

7月28日(土)から福島県のJヴィレッジで行われた第31回日本クラブユース選手権(U-18)で、浦和レッズユースはグループリーグを3戦全勝で突破し、決勝トーナメントに進んだが、8月1日(水)の準々決勝でサンフレッチェ広島ユースに敗れ、ベスト4進出はならなかった。



苦しい展開だったが最後までゴールを目指した
(8.1/広島ユース戦)

グループリーグは3戦全勝

神戸、愛媛を下したレッズユースはAグループリーグ最終日で同じく2勝を挙げている大分U-18と対戦。ともにグループ2位は確保しているが、決勝トーナメント進出を確実にするためには勝利が欲しい試合。レッズは前半22分、右スローインから林が持ち込み先制点を挙げた。後半10分には山田のインターセプトから、その

ボールを受けた宮川が2点目。さらに17分には高橋のパスをペナルティエリア付近で山田がスルー。抜け出した林が駄目押し点を決めた。レッズは3戦全勝でグループリーグ1位となり大会ベスト8に進んだ。

準々決勝の広島ユース戦は、互いの出方を見ながら局面では激しい攻防となる緊迫した立ち上がり。前半23分に相手のシュートをカットにいったプレーがPKの判定を受け、これを決めら

れて先制された。さらに35分、約35mのFKを直接決められて前半を折り返す。後半9分に右サイドを破られ追加点を許すがあきらめず、16分、林がエリア内で倒されたPKを自分で決めて1-3と追いつけた。相手が10人になっていたこともあり、勢いづいたがこの後2回目のPKを与えて1-4。さらにオウンゴールもあって点差は広がり、余裕を取り戻した広島から2点目が取れなかった。

日本クラブユース選手権(U-18) グループリーグ第1日	
2007.7.28(土) Jヴィレッジ	
レッズユース	1 前1 後0 VS 前0 後0 神戸ユース
GK	中村 隼
DF	丸山和男 山地 翔 濱田水輝
MF	矢部雅明 山田直輝(石沢哲也) 鈴木秀史(原口元気) 永田拓也 高橋峻希
FW	宮川貴司(阪野豊史) 林 容平(岸 幸太郎)
得点者	林(19分) * 40分ハーフ

日本クラブユース選手権(U-18) グループリーグ第2日	
2007.7.29(日) Jヴィレッジ	
レッズユース	3 前0 後3 VS 前0 後0 愛媛ユース
GK	柴田大地
DF	丸山和男 山地 翔 濱田水輝
MF	矢部雅明 山田直輝(田仲智紀) 鈴木秀史(原口元気) 永田拓也 高橋峻希
FW	宮川貴司(岸 幸太郎) 林 容平(阪野豊史)
得点者	林(54分) 山地(69分) 原口(78分)

日本クラブユース選手権(U-18) グループリーグ第3日	
2007.7.31(火) Jヴィレッジ	
レッズユース	3 前1 後2 VS 前0 後0 大分U-18
GK	柴田大地
DF	丸山和男 山地 翔 濱田水輝
MF	矢部雅明 山田直輝(石沢哲也) 永田拓也 高橋峻希(岸 幸太郎) 田仲智紀(原口元気)
FW	宮川貴司 林 容平(池田涼司)
得点者	林(27分) 宮川(55分) 林(62分)

日本クラブユース選手権(U-18) 準々決勝	
2007.8.1(水) Jヴィレッジ	
広島ユース	5 前3 後2 VS 前0 後1 レッズユース
GK	柴田大地
DF	丸山和男 山地 翔 濱田水輝
MF	矢部雅明 山田直輝 鈴木秀史(原口元気) 永田拓也(石沢哲也) 高橋峻希
FW	宮川貴司(阪野豊史) 林 容平(田仲智紀)
得点者	林(61分)

第22回日本クラブユース選手権(U-15) 清水に敗れベスト8ならず

8月11日(日)から福島県のJヴィレッジで行われた第22回日本クラブユース選手権(U-15)で、浦和レッズジュニアユースはグループリーグを2勝1分けの2位で通過し、決勝トーナメントに進んだが、15日(水)の1回戦で清水エスパルスジュニアユースに敗れベスト8進出はならなかった。



後半は優勢に試合を進めた(8.15/清水戦)

清水に終盤追いつくも、最後に失点

1勝1分けで迎えたグループリーグ3戦目の神戸戦は、先行しながらも追いつかれる展開となったが、攻勢を崩さず3-2で試合を制した。

決勝トーナメント1回戦では、清水に対し矢島が

早々に先制。前半のうちにPKとCKから逆転されたが、後半は優勢に試合を進め36分に鈴木大がFKを直接決めて振り出しに戻した。そこで流れを引き寄せたかに見えたが、終了間際に決勝ゴールを奪われた。

日本クラブユース選手権(U-15) グループリーグ第1日	
2007.8.11(土) Jヴィレッジ	
レッズジュニアユース	1 前1 後0 VS 前0 後0 シルフィードFC
GK	中島聡志
DF	町山阿記 西山航平 鈴木悠太 岡本拓也
MF	矢島倫太郎 若井祥吾 広瀬健太 小峯洋介
FW	鈴木大輝 清水慎太郎
得点者	矢島(2分) * 試合は35分ハーフ

日本クラブユース選手権(U-15) グループリーグ第2日	
2007.8.12(日) Jヴィレッジ	
レッズジュニアユース	0 前0 後0 VS 前0 後0 横浜FMジュニアユース
GK	中島聡志
DF	町山阿記 西山航平 鈴木悠太 岡本拓也
MF	矢島倫太郎(広瀬健太) 若井祥吾 小峯洋介 磯部裕基(篠田達郎)
FW	鈴木大輝 清水慎太郎
得点者	

日本クラブユース選手権(U-15) グループリーグ第3日	
2007.8.13(月) Jヴィレッジ	
神戸ジュニアユース	2 前0 後2 VS 前0 後0 レッズジュニアユース
GK	中島聡志
DF	町山阿記 西山航平 鈴木悠太 岡本拓也
MF	矢島倫太郎 若井祥吾 小峯洋介(磯部裕基) 広瀬健太
FW	鈴木大輝 清水慎太郎
得点者	小峯(2分) 清水(16分) 清水(21分)

日本クラブユース選手権(U-15) 決勝トーナメント1回戦	
2007.8.15(水) Jヴィレッジ	
清水ジュニアユース	3 前2 後1 VS 前1 後2 レッズジュニアユース
GK	中島聡志
DF	町山阿記 西山航平 鈴木悠太 岡本拓也
MF	矢島倫太郎 若井祥吾 小峯洋介(磯部裕基) 広瀬健太
FW	鈴木大輝 清水慎太郎
得点者	矢島(3分) 鈴木大(76分)